

県西宮高校に生息するニホンアナグマの生態

谷本卓弥(ひとはく地域研究員)・森崎有美(兵庫県立西宮高校教諭)

大平 永・門脇 健太・柴田 航平・伊藤 健人(兵庫県立西宮高等学校自然科学部)

1.はじめに

◆2019年11~12月

・校内で中型哺乳類の目撃情報

◆2020年1月

・赤外線カメラの設置(静止画) → アナグマが写る
 ・校舎裏の林床や校内の畑に多数の小さな穴 → アナグマが掘ったもの? → **アナグマが本校敷地内に生息?**



研究目的

- ・赤外線自動撮影カメラを用いて、本校における哺乳類の生息調査を行う。
- ・そのうち、本校の雨水配水管に生息すると思われるニホンアナグマの活動時間や行動などの生態を明らかにする。

ニホンアナグマ (Meles anakuma)

- ・食肉目イタチ科アナグマ属。
- ・本州、四国、九州に生息。
- ・食性:ミズなどの土中生物や果実。
- ・基本夜行性で、寒冷地では冬眠する。
- ・3~4月が繁殖期(田中,2002)

目の周りが黒い

爪が長い

阪神地域では2006年度以前は分布確認されていなかったが、2013年度以降の調査では生息が確認されるようになった(栗山ほか2018)。兵庫県においてはアナグマの詳しい生息状況や生態は明らかにされていない。



本校周辺の環境

- ・西宮市の住宅街にあり、小さな緑地が点在する。
- ・甲山森林公園より東1.5km,岡田山より北500mに位置する。



本校敷地 ★:カメラ設置場所

■:雨水排水管



2.研究方法

①2020年3月より本校敷地内に自動撮影カメラ(トレイルカメラ /APEMAN社)を複数台設置する。(本校敷地図参考)

- ・C棟裏地上高100cmから斜め下に向けて1台設置。
- ・D棟側面に地上高50cmから斜め下に向けて1台,さらに4月からD棟非常階段手すりを利用して地上高300cmから真下に向けてさらに1台設置。
 *事前調査よりD棟側面にある排水管がアナグマの巣穴の可能性
- ・カメラは動物の体から発せられる赤外線を感じし自動的にスイッチが入る。
- ・動画を20秒間撮影し,次の撮影まで2分間のインターバルをおくように設定した。

②得られた動画より,撮影日時・動物種・頭数・移動方向・行動等をエクセルに記録し,データ化する。

③データ解析を行い,結果をグラフ等で表示する。



3.結果および考察

(1)出現種と累計撮影回数(D棟)

生物種/月	3	4	5	6	7	計
アナグマ	97	102	64	13	31	307
ノネコ	19	22	99	73	48	261
*イタチ	21	16	11	6	3	57
タヌキ	10	11	5	3	1	30
アライグマ	2	0	3	2	3	10
テン	6	3	0	0	0	9
ハクビシン	0	0	1	0	5	6

← 休校期間 →

・動画撮影された哺乳類は累計撮影録回数の多い順にアナグマ,ノネコ,イタチ,タヌキ,アライグマ,テン,ハクビシンの7種で,さらに事前調査の静止画にはキツネが写っており,本校において中型哺乳類の8種を確認できた。(赤字は外来種で,*イタチは**チョウセンイタチ**の可能性もあるが,確定できていない)

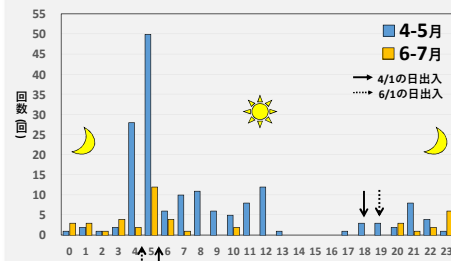
特にアナグマは阪神間市街地において**初撮影記録**である。

・アナグマ,イタチ,タヌキ,テンは休校期間中の3~5月に多く出現し特にアナグマは繁殖期である3~5月に活性が高くなっていることが確認できた。

→ アナグマは繁殖期に本校敷地内で生活していた



(2)アナグマの時間ごとの累計撮影回数

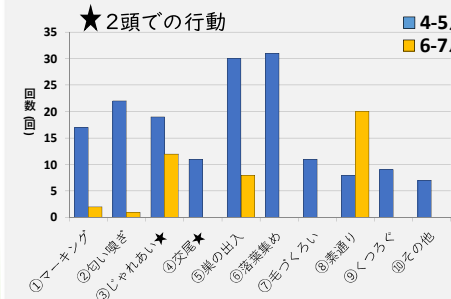


・4~5月(繁殖期)とそれ以降の6~7月に分けて1日の時間ごとの撮影回数を比較した。

・4~5月には夜明け前の5時過ぎから日没の19時前の明るい時間帯にも活動していた。

↓
 4~5月の繁殖期には必ずしも夜行性ではない。

(3)アナグマの行動と累積撮影回数



・(2)と同様,繁殖期の4~5月とその後の6~7月に分け,アナグマの行動を解析した。

・4~5月は①②⑤⑥のような巣の保持に関わる行動が多く見られ,また③④の様に雌雄の身体的接触も多く確認できた。

↓
 これら①~⑥は繁殖期に特徴的な行動であると推測できる。

4.今後の課題

- ・自動カメラによる撮影を継続し,一年間を通したアナグマの生活環を調査・解析する。
- ・糞の分析や行動圏の調査を行い,本校におけるアナグマの食性や行動などの生態をさらに明らかにする。

参考文献

- 1) 田中浩”ニホンアナグマの生態と社会システム”,山口大学学位論文,117pp(2002)
- 2) 栗山武夫 他,“兵庫県の野生動物の生息と被害の動向”,兵庫ワイルドライフモノグラフ,12, 9-31(2018)
- 3) 金子弥生,“東京日の出町におけるニホンアナグマの生活環”,哺乳類科学,41(1),53-64(2001)
- 4) 上遠彦彦 他”東京都三鷹市の都市緑地の哺乳類相とニホンアナグマの繁殖記録”,日本環境科学研究,32,15-20(2019)